

「SI-CAT」におけるニーズ自治体として北海道の参画が決定

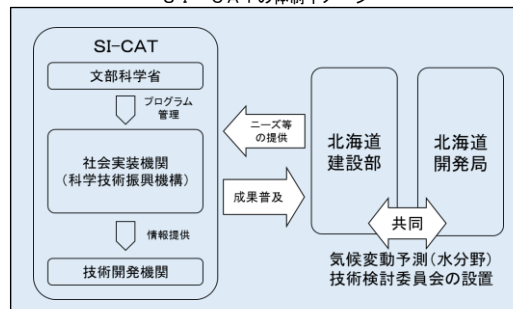
○「SI-CAT(気候変動適応技術社会実装プログラム)」とは

日本全国の地方自治体等が行う気候変動対応の検討・策定に汎用的に生かされるような信頼性の高い近未来の気候変動予測技術や気候変動影響に対する適応策の効果の評価を可能とする技術を開発するとともに、社会実装の確実な実現を図る事業を実施し、気候変動に伴って増加する極端気象現象等への自治体による地域特性に応じた適応策の導入を支援するものです。詳しくは、<https://si-cat.jp/>を参照願います。

○参加の目的

北海道建設部河川砂防課では、今後、北海道において、気候変動を考慮した適応策(水害リスクの評価を考慮した、手戻りがなく、リスクを最小化した、効率的な治水対策)を検討していくに当たり、全国の研究機関や自治体で行われている将来の気候変動予測や適応策などの情報を入手し、適応策導入の支援を受けるとともに、北海道の取り組みを全国に発信するため、平成29年10月、SI-CAT(気候変動適応技術社会実装プログラム)におけるニーズ自治体としての参画が決定しました。

SI-CATの体制イメージ



○背景

- ・H28. 8 観測史上初めて北海道に4つの台風が上陸・接近し、記録的な大雨により全道各地で甚大な被害が発生
- ・H28.10 上記を踏まえ、北海道開発局と北海道が共同で「水防災対策検討委員会」を設置
- ・H29. 3 同委員会は、「我が国においても気候変動の影響が特に大きいと予測される北海道が、先導的に気候変動の適応策に取り組むべきであり、気候変動による将来の影響を科学的に予測し、具体的なリスク評価をもとに治水対策を講じるべき」と報告書を取りまとめた
- ・H29. 6 同報告を踏まえ、北海道開発局と北海道が共同で新たに、「北海道地方における気候変動予測(水分野)技術検討委員会」を設置

道の取組状況

○北海道地方における気候変動予測(水分野)技術検討委員会

本委員会(委員長:室蘭工業大学大学院工学研究科教授 中津川 誠)では、北海道地方における気候変動の影響(降雨量、洪水流量の変化)を最新の知見に基づき、科学的に予測し、気候変動の影響によるリスクの変化(規模、形態、頻度)等を算定し、社会と共有することをミッションとしています。平成29年7月12日に第1回委員会を開催し、諸外国の適応策の取組事例の報告、モデル流域(十勝川、常呂川)における気候変動予測による降雨量の算定、温暖化シナリオの選定やダウンスケール手法について検討しました。また、同年11月21日の第2回委員会では、将来降雨における降雨分析、流出計算手法および計算結果、洪水リスク分析の考え方について検討しました。

次回は、平成30年3月9日を予定しており、影響予測結果としてモデル流域における降雨や洪水流出量の変化、リスクの変化等を報告します。

詳しくは、http://www.hkd.mlit.go.jp/ky/kn/kawa_kei/splaat000000vdyw.htmlを参照願います。

テレビ番組「HBC今日ドゥ」より H29.11.21委員会の様子



○適応自治体フォーラム

平成29年8月30日、SI-CATの支援を受けて実施している法政大学の「第2回適応自治体フォーラム(場所:法政大学市ヶ谷キャンパス ボアソナーダタワー26階)」に初参加しました。本フォーラムは気候変動適応策に関心のある全国の自治体行政(環境部局と関連部局)と地方環境研究所、SI-CATメンバーで構成し、地域適応策の策定に向けた気候変動データの提供と行政実務における活用を明らかにすることを目的としています。フォーラムの前半は、SI-CATでの防災/農業/暑熱のシーズとニーズの社会実装に向けた動きなどについて講演形式で行い、後半はテーマ別の小グループに分かれてワークショップ形式で議論しました。

○北海道気候変動適応会議

平成29年12月22日、SI-CAT活動の一環として、北海道における気候変動適応に関する研究者・実務者間の情報共有を目的とする「第15回北海道気候変動適応会議(代表:北海道大学大学院理学研究院教授 稲津 将)」に初参加し、活動の状況・成果を聴講しました。